

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社 ヨータイ		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 597-0093 大阪府貝塚市二色中町 8 - 1	
本票作成	部署名： 日生工場 製造部				
主たる業種	分類コード	21	業種名： 窯業・土石製品製造業		
事業の概要	耐火れんがの製造 平成28年度生産量 85.94千 t (県内工場) 従業員数379名 (県内)				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	日生工場		備前市日生町日生 2 6 0 1	
	②	吉永工場		備前市吉永町南方 1 2 5 0	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 2 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 28)年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	41,288 t CO ₂	40,760 t CO ₂	40,049 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 28)年度排出量
	①	日生工場	28,633 t CO ₂
	②	吉永工場	12,127 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(28)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 2.4 %	3.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 日生工場、吉永工場の生産量の合計	原単位当たり排出量		
		基準年度	(28)年度	目標年度
		463 t CO ₂ /(千 t)	474 t CO ₂ /(千 t)	450 t CO ₂ /(千 t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 28 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

日生工場は基準年度に比べては1.2%悪化しているものの、昨年度よりは3.3%改善している。日生工場の生産量は微減であるが、減少分は比較的原単位が低い不焼成れんがの生産量が減少している(対基準年で30.0%)ことが影響している。バッチキルンでの焼成品の一部は原単位の良い他工場への移管を実施中である。
 吉永工場は基準年度に比べては5.7%悪化しているものの、昨年度よりは3.1%改善している。吉永工場の生産量は基準年と比較して2.9%の減少であるが、エネルギー原単位の低い不定形製品の生産量の落ち込みが5.6%と高いことが原単位の上昇の主な原因となっている。

【推進体制】

各工場に省エネ推進担当者を設置し、その統括として日生工場長（常務取締役）をトップに、エネルギー関連担当者（製造部次長）を取りまとめ役として推進。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
日生工場	・ 不定形製品の生産量を増やすことでCO2原単位を低減 今後の実施事項 ・ 省エネタイプ照明への変更（順次実施） ・ バッチキルンでの焼成を原単位が良い他工場への焼成に移管を進める ・ ボイラーの使用の取りやめ（検討中）
吉永工場	・ 不定形製品の生産量を増やすことでCO2原単位を低減 ・ 水銀灯をLEDに変更した（30台） 今後の実施事項 ・ ドライヤー室の断熱化（5室目検討中） ・ 水銀灯をLEDに変更 ・ 不定形製品の生産量を増やすことでCO2原単位を低減 ・ 変圧器をトップランナー製品に更新

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

エンジニアリング事業部、技術研究所、岡山支社は日生工場内にあるため日生工場に含んでいます。